

Q06 戦時中はどんな格好をしていたの？

A 男性は軍服に似た国民服、女性はモンペを着用していました。

1944(昭和19)年ごろからは、防空頭巾や救急カバンを常時持ち歩くようになり、10・10空襲以降は寝るときにも男性は国民服とゲートル、女性はモンペを着用していたそうです。(『戦時資料 上巻』pp.161-162)



市民提供

Q07 捕虜になったあと収容所ではどんな生活を送っていたの？

A 残存家屋やテントに数世帯が同居し、食料や衣類が米軍から配給されたそうです。

出身地が異なる見知らぬ人との共同生活を強いられることもあり、配給されるものの質や量は収容所ごとに異なりました。農耕や家屋建設、道路整備、炊事洗濯などの作業に出ると、その代価として食料品などが支給されるため、多くの人が自主的に参加したそうです。(『戦時資料 上巻』pp.335-336)



沖縄県公文書館所蔵

Q08 糸満にも慰安所があったの？

A ありました。

戦争経験者の証言から、字糸満、字北波平、字山城、字南波平、字米須の5字にあったことが確認されており、村屋や民家が慰安所となっていたようです。(『戦時資料 上巻』pp.189-192)

『糸満市史 戦時資料』セット販売のお知らせ

『糸満市史 資料編7 戦時資料 上巻』
2003(平成15)年発行

明治の琉球処分から沖縄戦及び戦後の復興までの人々がどうやって戦争に巻き込まれていったかを詳細に追った戦時資料。沖縄戦を知るうえでまずはお読みいただきたい一冊です。

『糸満市史 資料編7 戦時資料 下巻 一戦災記録・体験談一』 1998(平成10)年発行

戦災調査と戦争体験聞き取り調査を基に、糸満市の戦災状況を明らかにしたもの。字ごとの戦災状況や住民の体験談を掲載。戦争を生き抜いた人々の具体的な証言から、実際の戦争とはどういうものかを感じられます。

『糸満市史』は、糸満市立中央図書館で貸出のほか、市役所1階の総合案内と5階南側5番窓口の生涯学習課文化振興係にて、見本の閲覧が可能です。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

また、5月1日より、『糸満市史 資料編7 戦時資料』の上巻(3,600円)と下巻(3,500円)をセットでご購入の場合、特別価格5,000円(税込)でご提供することとなりました。多くの皆様にご活用いただき、沖縄戦について再び深く考える機会としていただければ幸いです。

販売場所

- 糸満市物産センター遊食来(道の駅いとまん敷地内 キャッシュレス決済可)
- 宮脇書店糸満店(サンエーしおざきシティ内 キャッシュレス決済可)
- 糸満市役所5階南側5番窓口 生涯学習課文化振興係(現金のみ)



問い合わせ先 生涯学習課 ☎ 840-8163

Q01 糸満の人たちはどうやって戦争に巻き込まれていったの？

A 1944(昭和19)年から部隊が配備され、同年10月10日には空襲により被災。翌年6月には、沖縄戦終焉の地となりました。

10・10空襲で不利な状況に立たされた日本軍は、作戦の変更を決断。軍主力を島尻地域に集結させ、本土決戦準備の時間稼ぎをする戦略持久作戦に転じました。玉砕も降伏も許されない状況下、日本軍の喜屋武半島への撤退で戦闘が継続され、糸満市で激しい地上戦となりました。(『戦時資料 上巻』pp.176,214-215,504)



沖縄県公文書館所蔵

Q02 どこに疎開したの？

A 主に宮崎県、熊本県、台湾などに疎開しました。

県外に出るのが困難になると、本島北部(山原)も疎開先となりました。集団疎開が縁となり、糸満市と宮崎県都農町は姉妹都市として提携しました。(『戦時資料 上巻』pp.193-198)



市民提供

Q03 アメリカ軍はいつ沖縄本島に上陸したの？

A 4月1日、読谷村周辺から上陸。6月6日、糸満では字北波平が最初に占領されました。

6月23日に日本軍の組織的戦闘は終わりましたが、6月30日まで掃討戦が行われ、7月2日に米軍の沖縄作戦終了が宣言されました。(『戦時資料 上巻』pp.239-271)



沖縄県公文書館所蔵

Q04 「学徒隊」って何?どんなことをするの？

A 中学校、師範学校の生徒で編成され、男子は通信隊と鉄血勤皇隊、女子は看護要員として戦場に動員させられました。

県内から1,000人を超える若者がかり出されましたが、多くが糸満で亡くなりました。(『戦時資料 上巻』pp.283-284)

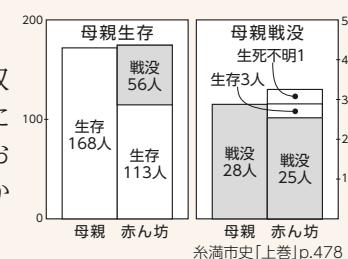


沖縄県公文書館所蔵

Q05 戦時中、妊婦さんはどうしていたの？

A 壕の中で出産するケースもありました。

生まれて間もない乳児を抱いて避難する女性や、収容所でお産する女性もいました。「糸満市戦災調査」によると、戦時中の赤ん坊の戦没率は40.9%となっており、赤ん坊が生き残るには過酷な状況だったことがわかります。(『戦時資料 上巻』pp.477-480)



市史で学ぶ沖縄戦

慰霊の日特集

沖縄戦終戦から78年が経とうとしています。テレビやSNSでは毎日のように世界各地の戦争や紛争の報道があり、平和な社会は実現していないことを実感させられます。

なぜ戦争は起きてしまうのでしょうか？戦争になると暮らしはどう変わるのでしょうか？二度と繰り返してはいけない。多くの経験者が発するこのメッセージの意味をもっと自分のこととして受け取るために、『糸満市史 戦時資料』をひもといってみましょう。